第４ 集乳及び乳業の合理化並びに肉用牛及び牛肉の流通の合理化に関する基本的な事項

１ 集送乳及び乳業の合理化に関する基本的な事項

（１）集送乳の合理化

燃油高騰、2024年問題を背景とする運転手不足等に加え、酪農経営の点在化や乳業工場の再編等に伴い移送距離が延びており、合理的な生乳流通の重要性が増している。

生乳生産基盤の強化及び生乳の安定的な供給のためには、引き続き生乳流通体制の合理化・効率化を図り、物流コストの上昇幅を圧縮する必要があることから、クーラーステーション等の集送乳施設の整備、生乳流通の広域調整、納品時間の管理等の推進による、輸送距離や荷待ち時間の削減等の取組を拡大していく。

○　集送乳等経費の目標

	目標（令和12年度）
集送乳等経費	毎年の増加率の緩和

当面は集送乳経費の増加が見込まれるが、現時点で絶対的な水準を見込むことが難しいため、生乳流通体制の合理化・効率化により、毎年の増加率の緩和を目指す。

（２）乳業の再編合理化

中小の飲用乳業工場等の再編については、補助事業による支援等により一定程度進んでおり、稼働率の上昇がみられる。今後、少子化等による需要の減少や安全・安心を求める声の高まりに応えていくためには、先手先手で、飲用供給体制の強靱化を図っていく必要がある。

一方、生乳需給調整機能の強化が必要となっている中、乳製品加工施設については老朽化・偏在が課題となっている。

このため、地域における生乳生産の実態も踏まえた丁寧な対話や、地域の関係者が課題を共有しながら飲用供給体制の強靱化に向けた議論を重ねつつ、引き続き、中小飲用乳業工場の再編・合理化と稼働率の向上を推進する。また、老朽化・偏在が課題となっている広域の需給調整機能を担う乳製品加工基幹施設についても地域の関係者が課題を共有しながら、その高度化を推進する。

○　牛乳・乳製品工場の稼働率目標

区分	現状（令和５年度）	目標（令和12年度）
飲用牛乳工場	60.6	現状から５ポイント上昇
乳製品工場	82.7	

○　牛乳・乳製品工場数の目標

区分	現状（令和５年度）	目標（令和12年度）
飲用牛乳工場数	182	現状の９割
乳製品工場数	38	

２ 肉用牛及び牛肉の流通の合理化に関する基本的な事項

（１）肉用牛の流通合理化

家畜市場は、肉用牛の公正な取引と適正な価格形成に寄与しているが、近年、家畜市場の再編が低調である中、特に中山間地域や離島などでは、生産・流通する子牛が少ないため毎月開催できず、購買者が集まりにくく価格が競り上がらない市場も存在している。購買者にとって魅力的な家畜市場とするためには、一定規模の取引数、毎月開催による日齢・体重のばらつきの解消等が求められることから、家畜市場の再編・整備の推進が必要となっている。

家畜市場の再編は、出荷頭数の安定や子牛の斉一化等を通じ、セリの活性化、適正な価格形成の実現に貢献し、出荷者・購買者の双方にメリットがあることから、地域の実情を踏まえた再編について積極的に推進する。

（２）牛肉の流通合理化

① 食肉処理施設の再編・合理化

食肉処理施設は、生産者と消費者の結節点として、食肉を供給していくために必要なインフラ施設であるが、築 30 年を超える施設が約半数を占めており、施設の老朽化、稼働率の低下、労働力不足といった課題に直面している。

また、食肉処理施設の収入源が主にと畜料や加工料に限られる中、整備に必要な費用が急激に上昇しており、巨額の施設整備費への投資に対する懸念から、多くが大規模な整備に踏み切れず老朽化が進行している。

こうした課題に対応するため、再編や輸出型施設の整備、収益力の強化等を推進するとともに、将来の再編に向けた施設同士の連携を強化する。